資料8



北海道創建に向けて

地方創生の取組事例のご紹介 ~地域商社による北海道食ブランドの輸出拡大~

平成28年5月24日 北海道創生協議会資料

地域商社による北海道食ブランドの輸出拡大①



1. 海外ビジネスを進めるための課題

企業が海外市場を目指す場合、販路開拓の困難さ、代金回収やコミュニケーションリスクなど、海外ビジネスに伴う多くの課題を解決する必要があります。

2. 極東ロシアにおける北海道銀行の温室栽培プロジェクト

海外への輸出・販路拡大においては、信頼できる現地の流通網に載せること(商流の確立)が重要です。 北海道銀行では、これまでに日揮や越浦パイプ、JFEエンジニアリングなどの企業と連携し、極東ロシアにおいて温室栽培などのプロジェクトを サポート。これらのプロジェクトを通じて、生産支援のほか、現地における生産物の商流・販路確立のため、ネットワークを構築してきました。



地域商社による北海道食ブランドの輸出拡大②



3. 地域商社の立ち上げ

北海道銀行では、海外への道産品の輸出を支援するため 地域密着型商社「北海道総合商事株式会社」の立ち上げに 関与してきました。

平成27年10月に設立された同社と業務提携を結ぶことで、 課題を解決し、輸出に向けた支援を進めています。

◆ 北海道総合商事株式会社

商取引仲介

為替変動リスクのヘッジ

集荷·配送

立替与信(売掛行為)

信用リスクのヘッジ

市場開拓(情報蓄積·交換機能)

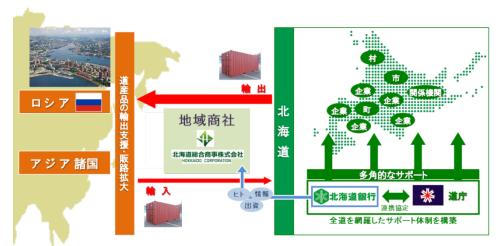
4. 輸出の取組みをスタート

平成28年2月22日、北海道総合商事(株)による道産品を載せた初のコンテナが小樽港を出発しました。

ウラジオストクへ向けたコンテナ(総重量約7トン)には、栗山町の「ゆめぴりか」とタマネギ、余市町産のリンゴ、倶知安町のジャガイモなどを搭載しました。

5. 現地大手スーパーなど約300店舗で販売

現地の大手スーパーなど約300店舗で販売したところ、「北海道ブランド」の食材は、好評な売れ行きとなりました。 5月には第2弾の輸出を行い、今後も農産品を中心に道産品の輸出支援を継続・拡大していきます。









北海道銀行は、極東ロシア温室栽培プロジェクト等により構築した「商流」を道内企業に活用いただくとともに、 さらなる商流の拡大を推進することで、『道産食品輸出額 1.000億円』 に貢献します。